

目 次

【高齢者看護学実習Ⅰ（施設で生活する高齢者の看護）】

I. 実習目的	1
II. 実習目標	1
III. 行動目標	1
IV. 実習単位・期間	2
V. 実習施設	2
VI. 実習の展開	3
VII. 実習に関する注意事項	5
VIII. 実習評価(単位の認定)	5
IX. 記録物	5

【高齢者看護学実習Ⅱ（入院加療している高齢者の看護）】

I. 実習目的	19
II. 実習目標	19
III. 行動目標	19
IV. 実習単位・期間	20
V. 実習施設	20
VI. 実習の展開	21
VII. 実習に関する注意事項	23
VIII. 実習評価(単位の認定)	23
IX. 記録物	23

【高齢者看護学実習Ⅰ（施設で生活する高齢者の看護）】

I. 実習目的

健康を障害し、施設で療養生活を送る高齢者とその家族が持つ健康問題を理解するとともに、よりよい生活支援に向けて必要な知識、技術、態度を修得する。

II. 実習目標

1. 施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的側面から理解できる。
2. 施設で療養生活を送る高齢者および家族とコミュニケーションをとることができ、円滑な人間関係を築くことができる。
3. 施設で生活する高齢者および家族が持つ健康問題を把握し、生活の質の向上を目指した援助を実施することができる。
4. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解するとともに、高齢者の生活を支える多職種について理解を深め連携することができる。
5. 高齢者の健康とよりよい生活を支えるための社会資源について理解し活用の実際を知る。
6. 施設で生活する高齢者との関わりを通して高齢者看護における倫理的課題を明らかにし、高齢者看護における倫理観を養う。

III. 行動目標

1. **施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的側面から理解できる。**
 - 1) 施設で生活する高齢者の身体、精神、社会的変化を説明できる。
 - 2) 施設で生活する高齢者の身体、精神、社会的変化を健康障害の側面から説明できる。
2. **施設で療養生活を送る高齢者および家族とコミュニケーションでき円滑な人間関係を築くことができる。**
 - 1) 高齢者個々人および家族の生きてきた道を大切に思い、相手の立場とその人生を尊重したコミュニケーションをとることができる。
 - 2) 認知症を持つ高齢者への理解を深めるとともに、看護学生として適切な関わりができる。
3. **施設で生活する高齢者および家族が持つ健康問題を把握し、生活の質の向上を目指した援助を実施することができる。**
 - 1) 高齢者の生活の自立の程度をアセスメントし必要な援助を明らかにすることができる。
 - 2) 個々の高齢者の状態に合わせ、安全・安楽を踏まえた援助を指導者の指導のもとに実施することができる。

- 3) 認知症などにより対応困難な高齢者の特徴を踏まえ、適切な対応方法を思考し対処することができる。
- 4) 援助の結果を高齢者や家族の状態や変化から評価することができる。

4. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解するとともに、高齢者の生活を支える多職種について理解を深め連携することができる。

- 1) 施設で生活する高齢者の自立と生活の質を支えるための看護師の役割を説明できる。
- 2) 高齢者施設における関係職種の役割と連携について説明できる。

5. 高齢者の健康とよりよい生活を支えるための社会資源について理解し活用の実際を知る。

- 1) 支援が必要な高齢者への社会資源とサービスについて具体的に説明できる。
- 2) 介護老人保健施設、介護老人福祉施設の役割と特徴の違いを具体的に説明できる。

6. 施設で生活する高齢者との関わりを通して高齢者看護における倫理的課題を明らかにし、高齢者看護における倫理観を養う。

- 1) 施設で生活する高齢者の人権やプライバシーを尊重した関わりができる。
- 2) 施設で生活する高齢者の倫理的課題について自己の考えを述べることができる。
- 3) 自己の高齢者観を育み、高齢者看護について考察することができる。

IV. 実習単位・期間

- ・ 高齢者看護学実習Ⅰ 2単位 (90時間 2週間)
- ・ 平成28年9月～平成29年2月 (3年次後期)
- ・ 臨地実習時間： 9:00～16:00

V. 実習施設

1. イーストピア東和
2. ホスピア東和
3. ひぐらしの里

* 個人情報保護のため、記録用紙には実習施設名は記載せず上記の番号を記載する

VI. 実習の展開

週間計画			備考
週数	曜日	実習内容	
実習前		<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・各自の実習施設を確認 (交通経路、所要時間など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習は、インターネットを使用せず、教科書等を用いて調べる
1 週目	月	【学内】実習オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・学内日の実習時間は9:15～16:25
	火	施設・フロアオリエンテーション 実習計画発表 各自の計画に沿った実習	<ul style="list-style-type: none"> ・施設での実習時間は9:00～16:00 ・8:50までに更衣を済ませ、9:00に各フロアで挨拶する
	水	実習計画発表 各自の計画に沿った実習	<ul style="list-style-type: none"> ・(臨地実習初日に、受け持ち高齢者1名を紹介してもらい挨拶をする) ・ケアは指導者・教員と共に(または許可のもとに)実施し学生の自己判断のもとでは決して行わない
	木	実習計画発表 各自の計画に沿った実習 (水または木に通所サービスの実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に認知症のある方との関わり方(コミュニケーション)はスタッフのケアをよく観察し学びを深める
	金	実習計画発表 各自の計画に沿った実習 <ul style="list-style-type: none"> ・1週目の実習のまとめ(レクリエーションを企画するにあたり高齢者をどのように理解したか、通所サービス等についてのまとめを実施) ・1週目の金曜日までにレクリエーションの企画書を指導者・教員に見せ指導をもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、本日の行動計画を発表し助言を頂いてから実習をはじめる ・午前11:30、午後14:30までに報告を終了する ・15:00～16:00は学生カンファレンスと記録の整理をする ・終了時には、スタッフと利用者に必ず挨拶をして帰宅する ・通所サービスの実習 ・高齢者と関わりながら、高齢者が通所サービスを利用することをどのように捉えているのかを知り、本人や家族にとっての意味を考える

週間計画			備考
週数	曜日	実習内容	
2週目	月	実習計画発表 施設や入所者のスケジュールに沿った実習 15:00～ レクリエーションのリハーサル	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーションの企画書を修正し、準備を行う 「安全について」をテーマにカンファレンス
	火	実習計画発表 施設や入所者のスケジュールに沿った実習	<ul style="list-style-type: none"> 2週目の火曜日または水曜日にレクリエーションを実施し評価を行う レクリエーション当日の朝、スタッフにレクリエーションの概要を説明し、必要に応じて協力を得る
	水	実習計画発表 施設や入所者のスケジュールに沿った実習 最終カンファレンス 「施設実習における高齢者看護観」について	<ul style="list-style-type: none"> 最終カンファレンスの具体的なテーマ、司会、タイムキーパーは学生が決めて、主体的に実施する
	木	【学内】 ・合同カンファレンス ・高齢者看護学実習の評価表を各自が記載する	<ul style="list-style-type: none"> 合同カンファレンスのテーマは、実習における課題点、疑問点、ディスカッションしたいことなどを学生が事前に考え、テーマとして挙げる 司会、タイムキーパーを学生が決める
	金	【学内】 ・金曜日：16：30記録物一式を担当教員に提出 ・評価表をもとに教員と評価面接を行い、次の課題を共に明らかにする	

*最終レポート

- ・内容：タイトル「施設実習における高齢者看護観」サブタイトルを各自でつける
- ・形式：A4用紙、横書き、10.5pt 40字×40字
- ・枚数：2枚以上

タイトル
サブタイトル
学籍番号 氏名
(1行開ける)
本文書き出し

VII. 実習に関する注意事項

1. 施設までの通学は、看護学生らしい服装とし華美な洋服はさける
2. 髪の毛は自宅から、まとめて黒ネットに入れてくる
3. 実習中は、パンツスタイルのユニフォーム、ナースシューズを着用する
4. 昼食は弁当を持参する
5. 実習記録には、施設名、受持ち入所者名は記入せず、ファイルに綴じ紛失しないように管理する
6. 実習中に知り得た個人情報は口外しない
7. 実習中の事故は、ただちに指導者、教員に報告する
8. 施設では高齢者を「患者」と呼ばないため注意する

VIII. 実習評価（単位の認定）

実習出席状況（実習時間の2/3以上の出席）、実習内容、実習記録、最終レポートについて高齢者看護学実習評価表に基づき総合的に評価する

IX. 記録物

1. 提出期限：実習2週目の金曜日16:30までに担当教員に提出する
2. 記録物はファイルに綴じ、背表紙および表紙に学籍番号、氏名、実習期間、施設番号を明確に記載する
実習施設名などプライバシーに関わることは一切記載しない
3. 記録物を綴じる順番
 - 1) 評価表
 - 2) 記録用紙1号
 - 3) 表紙
 - 4) 記録用紙3号
 - 5) 記録用紙4号
 - 6) 記録用紙5号
 - 7) 記録用紙6号
 - 8) 最終レポート
 - 9) 健康チェック表※記録用紙2号は高齢者看護学実習IIのファイルに綴じる

平成28年度高齢者看護学実習Ⅰ (施設で生活する高齢者の看護)

実習施設番号：

実習期間：平成 年 月 日～ 月 日

記録提出日：平成 年 月 日

学籍番号：

氏 名：

担当教員：

【実習に対する自己目標】

学籍番号：

氏名：

「高齢者看護学総論」「高齢者看護援助論」で学習したことを踏まえ記載して下さい

1. 自分の目標

2. 目標を達成するための行動

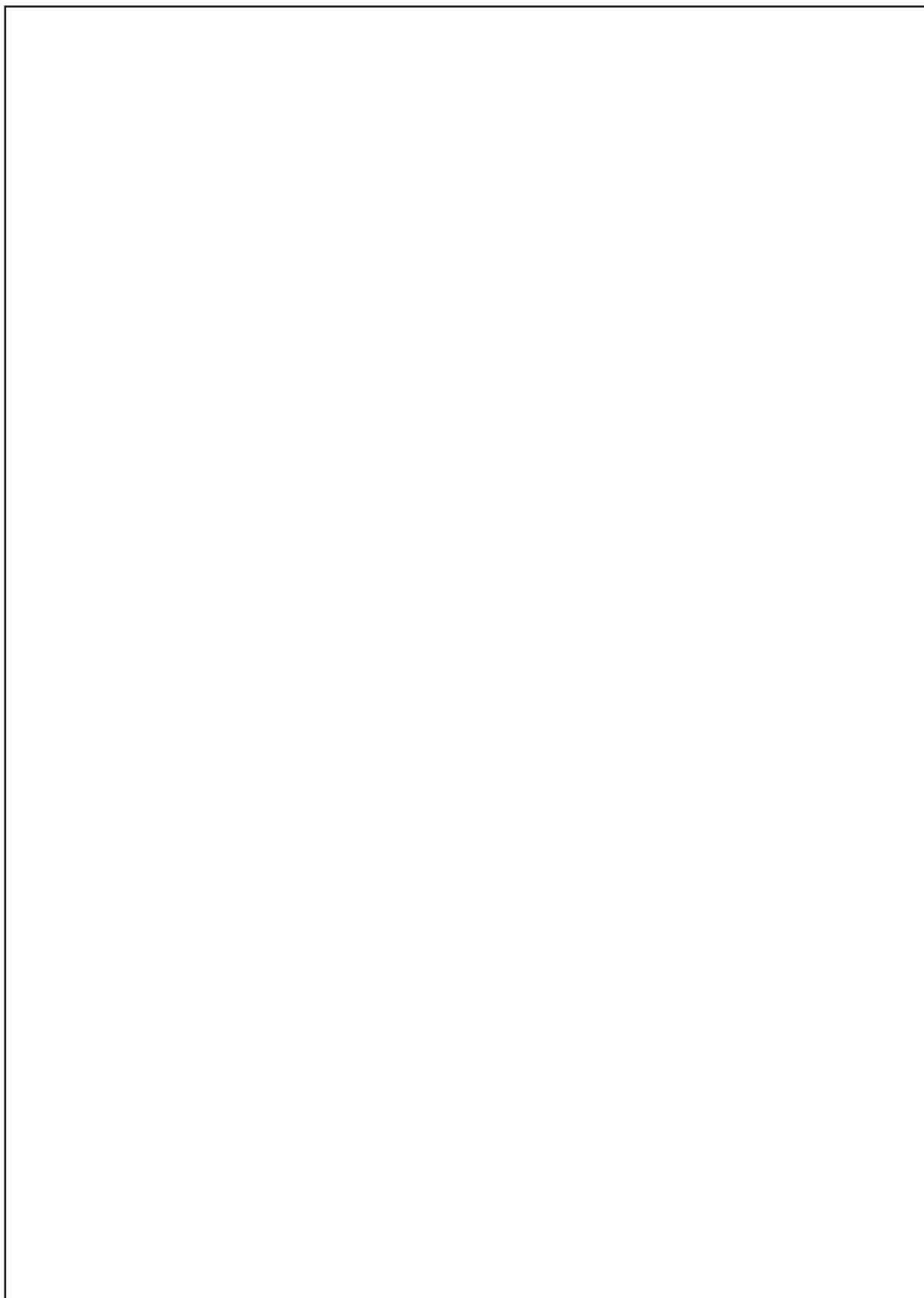
3. 実習の成果（実習後）

4. 今後の課題（実習後）

【事前学習】

学籍番号：

氏名：

A large empty rectangular box with a thin black border, intended for the student to write their student ID and name.

【日々の行動計画表】

平成 年 月 日 () 指導看護師： 学籍番号： 氏名：

【本日の実習目標】			
時間	行動計画	実施および結果	本日の評価
【本日の気づき、学び、感想など】			【指導者コメント】
			印

【受け持ち高齢者の全体像】

学籍番号：

氏名：

1. コミュニケーションをとる

- ・最もこだわっていることは何か

2. 全体像をとらえる

- ・これまでの生活歴（年齢、性別、仕事、家族、最も楽しかったこと、好きなこと、自慢なことなど）

- ・現在の健康状態と、そのとらえ方（疾患、障害、視力、聴力など）

- ・現在の生活と、そのとらえ方（日課、日常生活、楽しみ、役割、住まい、家族、環境など）

・生きてきた時代背景

・これらから見えてきたこの人らしさを解釈・分析して全体像をまとめる

3. 必要な援助は何かを考える

【レクリエーション企画書】

施設番号 ()

学生氏名：

1. 開催日時

日時：()年()月()日()曜日 時間(: ~ :)

場所：

2. レクリエーション名

3. 目的

4. 内容

5. 参加者：()名程度

6. 使用物品

7. 実施に当たっての注意事項

8. 学生の役割

司会・進行：

進行補助：

記録：

準備・後片付け

9. 配置図



10. 具体的な流れ

時間	内容・具体的方法	留意点(学生の動き)

11. 実施・評価

実施	評価

12. 施設におけるレクリエーションの学び

--

【施設の実際】

施設番号 ()
施設の種類 ()
学籍番号：

氏名：

1. 施設の理念

・施設の種類, 設置目的・理念は何か？

2. サービスの内容

・実際に提供しているサービスの内容と種類は何か？

3. 施設利用者全般の特性

・この施設の高齢者の特性（年齢・介護度）は？

4. 利用目的と活用方法

- ・高齢者が通所サービスを利用することをどのように捉えているのか？
- ・本人や家族にとっての意味は？

5. 多職種との連携

- ・どのような職種が存在するか？
- ・それらの職種の間でどのような連携が図られているか？
- ・施設の高齢者のサービスと関連させて考える看護の役割は？

高齢者看護学実習Ⅰ評価表

実習場所： _____ 実習期間：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日～ _____ 月 _____ 日

学籍番号： _____ 学生氏名： _____

内容	評価項目	自己評価	教員評価
高齢者の理解	1. 実習に必要な事前学習に積極的に取り組み、対象を理解する努力ができる		
	2. 高齢者の状態に応じて日々の行動計画を考え記述できる		
	3. 高齢者の生活の核（健康観・生活信条・人生観）を理解し記述できる		
	4. 高齢者が老いを抱えながら生きている（活動、休息、食事など）現状を理解し記述できる		
	5. 高齢者が施設で暮らしている（他者との関わり・文化的側面）意味を理解し記述できる		
	6. 高齢者がより豊かに生きる（自分らしさ・自己実現・意欲）意味を理解し記述できる		
	7. 情報を収集し、エビデンスに基づいたアセスメントができる		
	8. アセスメントした情報から高齢者の全体像を記述できる		
	9. 高齢者施設のサービスの在り方、および高齢者や家族が施設を利用する意味を理解し記述できる		
	10. 多職種の役割から、看護の役割が理解できる		
	11. 介護老人保健施設と、介護老人福祉施設の役割と特徴の違いが理解できる		
	12. 通所サービスの役割と特徴が理解できる		
	13. 高齢者の安全・安楽を考慮したレクリエーションを企画できる		
	14. レクリエーションに対する高齢者の意欲を高め、レクリエーション全体を通して主体的に運営できる		
	15. 高齢者の反応をふまえレクリエーションを適切に評価できる		
実習態度	16. 高齢者に関わる人々や環境に配慮しながら、高齢者の状況に応じた適切な看護（安全、安楽、安心）を提供することができる		
	17. 高齢者の持つ残存機能を引き出し、自立（生活の質の向上）に向けた支援ができる		
	18. 高齢者の個性を理解し、高齢者の人権尊重と看護倫理について理解できる		
	19. 報告・相談ができ、指導者や指導教員と良好な人間関係を保つことができる		
	20. 自己の健康管理および感情のコントロールができ意欲的に実習できる		
	21. 学生カンファレンスに積極的に参加し、自己の役割を果たすとともに、学びを共有することができる		
	22. 実習に関わる全ての方と良好な人間関係を築き、コミュニケーションを図ることができるよう努力できる		
	23. 清潔なユニフォームと汚れていない靴を着用し、決められたヘアスタイルである		
	24. 記録物は、期限内に提出できる		
	25. 実習を通しての学びを明確にし「施設実習における高齢者看護観の学び」を記述できる		
評定	S (100～90) A (89～80) B (79～70) C (69～60) F (60未満)	点	点
評価基準	4：よくできた 3：まあまあできた 2：努力を要する 1：できなかった		
出欠席	遅刻・欠席時間数： _____ 時間		
学生自己評価			
単位認定者：	印	指導教員名：	印

【高齢者看護学実習Ⅱ（入院加療している高齢者の看護）】

I. 実習目的

高齢者の加齢に伴う変化と疾病・障害について把握し、高齢者が生活の中でセルフコントロールやセルフケアが出来るために本人とその家族へのケアを実践を通して学び、個別的な自立支援を目指す。

II. 実習目標

1. 加齢現象による疾病・障害と日常生活への影響を理解できる。
2. 受持ち高齢者の検査・治療を把握し、苦痛・不安の緩和に向けた援助を実施できる。
3. 高齢者の療養生活（健康維持・回復・機能低下予防・合併症や続発症予防）・生きがい・QOL向上を目指した看護過程の展開ができる。
4. セルフコントロール、セルフケア、継続看護の指導や相談のあり方を考える。
5. 家族やソーシャルサポートシステムのなかでの療養生活を考える。
6. 高齢者の疾病・療養に対しての保障・社会資源の活用について理解できる。
7. 実習で習得した事項は、指導・カンファレンス・文献検索などにより確認・補強・裏付けをし、学習効果を深める。

III. 行動目標

1. 加齢現象による疾病・障害と日常生活への影響を理解できる。
 - 1) 加齢現象による障害からくる日常生活への影響を説明できる。
 - 2) 疾病による健康障害からくる日常生活への影響を説明できる。
2. 受持ち高齢者の検査・治療を把握し、苦痛・不安の緩和に向けた援助を実施できる。
 - 1) 受持ち患者の検査・治療を把握し、それに伴う苦痛や不安を把握できる。
 - 2) 受持ち患者の検査・治療に伴う苦痛や不安の緩和に向けた援助を実施できる。
3. 高齢者の療養生活（健康維持・回復・機能低下予防・合併症や続発症予防）・生きがい・QOL向上を目指した看護過程の展開ができる。
 - 1) 高齢者の状態を把握しアセスメントができる。
 - 2) アセスメントをもとに看護上の問題を把握できる。
 - 3) 高齢者の個別性を踏まえた目標を設定できる。
 - 4) 目標を達成するための個別的な具体策を立案できる。
 - 5) 高齢者の安全、安楽、自立を目指した看護ケアを実践できる。
 - 6) 実施した結果を基に評価することができる。

4. セルフコントロール、セルフケア、継続看護の指導や相談のあり方を考える。

- 1) 受持ち高齢者のセルフコントロール、セルフケア、継続看護の必要性について説明できる。
- 2) 受持ち高齢者のセルフコントロール、セルフケア、継続看護に向けた支援ができる。

5. 家族やソーシャルサポートシステムのなかでの療養生活を考える。

- 1) 高齢者のよりよい療養生活の在り方について述べられる。

6. 高齢者の疾病・療養に対する保障・社会資源の活用について理解できる。

- 1) 高齢者の疾病や療養に関する社会資源、社会保障について述べられる。

7. 実習で習得した事項は、指導・カンファレンス・文献検索などにより確認・補強・裏付けをし、学習効果を深める。

- 1) 実習で習得した事項について、学生カンファレンスで話し合い、学びを共有することができる。
- 2) 実習中の疑問やさらに追及したい点について自ら調べ深めることができる。

IV. 実習単位・期間

- * 高齢者看護学実習Ⅱ 2単位（90時間 2週間）
- * 平成28年10月～平成29年2月 （3年次後期）
- * 臨地実習時間：8:30～16:00（学内実習日は9:15～16:25）

V. 実習施設

4. さいたま北部医療センター
5. 東和病院
6. 小川赤十字病院
7. 江東病院
8. 岡病院

* 個人情報保護のため、記録用紙には実習施設名は記載せず上記の番号を記載する

VI. 実習の展開

週間計画			備考
週数	曜日	実習内容	
実習前		<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・各自の実習施設を確認 (交通経路、所要時間など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習は、インターネットを使用せず、教科書等を用いて調べる ・記録は手書きとする
1 週目	月	【学内】 <ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習室Cでおこなう ・月曜日が祝日の場合は、前週の金曜日 16:35 からおこなう
	火	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・病棟オリエンテーション ・実習計画発表 ・各自の計画に沿った実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・8:50 までに更衣を済ませ、9:00 に各フロアで挨拶する ・リーダーは、朝の体温を確認して教員に報告する
	水	<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画発表 ・各自の計画に沿った実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習初日に、受け持ち患者を紹介してもらい挨拶をする ・ケアは指導者・教員と共に（または許可のもとに）実施し学生の自己判断のもとでは決して行わない
	木	<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画発表 ・各自の計画に沿った実習 ・【関連図】まで進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、本日の行動計画を発表し助言を頂いてから実習をはじめる
	金	【学内】 <ul style="list-style-type: none"> ・1 週目の実習のまとめ ・【アセスメント】、【関連図】、【問題リスト】、【看護計画】まで提出し、指導を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・午前 11:30、午後 14:30 までに報告を終了する ・15:00 までにケアを終了し 15:00 ～ 16:00 は学生CFと記録の整理をする ・終了時には、スタッフと受け持ち患者に必ず挨拶をして帰宅する

週間計画			備考
週数	曜日	実習内容	
2 週目	月	・実習計画発表 ・各自の計画に沿った実習	・2 週目からは、3号用紙・7号用紙に記録する
	火	・実習計画発表 ・各自の計画に沿った実習	
	水	・実習計画発表 ・各自の計画に沿った実習	・午後、【看護計画】について指導
	木	・実習計画発表 ・各自の計画に沿った実習 ・最終カンファレンス 「病院実習における高齢者看護観」について	・最終カンファレンスの具体的なテーマ、司会、タイムキーパーは学生が決めて、主体的に実施する
	金	【学内】 ・評価表をもとに教員と評価面接を行い、次への課題を明らかにする ・金曜日：16：30 までに記録物一式を担当教員に提出	・評価表記入 ・最終課題レポート作成

* 最終レポート

- ・内容：重点を置いて行った看護について、学んだことや考えを述べる
- ・形式：A 4 用紙、横書き、10. 5pt 40字×40字
- ・枚数：2 枚以上

タイトル
サブタイトル
学籍番号 氏名
(1 行開ける)
本文書き出し

VII. 実習に関する注意事項

1. 施設までの通学は、看護学生らしい服装とし華美な洋服はさける
2. 髪の毛は自宅から、まとめて黒ネットに入れてくる
3. 実習中は、パンツスタイルのユニフォーム、ナースシューズを着用する
4. 昼食は弁当を持参する
5. 実習記録には、施設名、受持ち患者名は記入せず、ファイルに綴じ紛失しないように管理する
6. 実習中に知り得た個人情報は口外しない
7. 実習中の事故は、ただちに指導者、教員に報告する

VIII. 実習評価（単位の認定）

実習出席状況（実習時間の2/3以上の出席、実習内容、実習記録、最終レポートについて高齢者看護学実習評価表に基づき総合的に評価する

IX. 記録物

1. 提出期限：実習2週目の金曜日16：30に担当教員に提出する
ただし、岡病院については、土曜日の9：15までに事務局のBOXに提出する
2. 記録物はファイルに綴じ、背表紙および表紙に学籍番号、氏名、実習期間、施設番号を明確に記載する
実習施設名などプライバシーに関わることは一切記載しない
3. 記録物を綴じる順番
 - 1) 評価表
 - 2) 表紙
 - 3) 記録用紙1号
 - 4) 記録用紙2号（実習Ⅰ・Ⅱの順に綴じる）
 - 5) 記録用紙3号
 - 6) 記録用紙4号
 - 7) 記録用紙5号
 - 8) 記録用紙6号
 - 9) 記録用紙7号
 - 10) 最終レポート
 - 11) 健康チェック表

平成28年度高齢者看護学実習Ⅱ (入院加療している高齢者の看護)

実習施設番号：

実習期間：平成 年 月 日～ 月 日

記録提出日：平成 年 月 日

学籍番号：

氏 名：

担当教員：

【実習に対する自己目標】

学籍番号：

氏名：

「高齢者看護学総論」「高齢者看護援助論」で学習したことを踏まえ記載して下さい

1. 自分の目標

2. 目標を達成するための行動

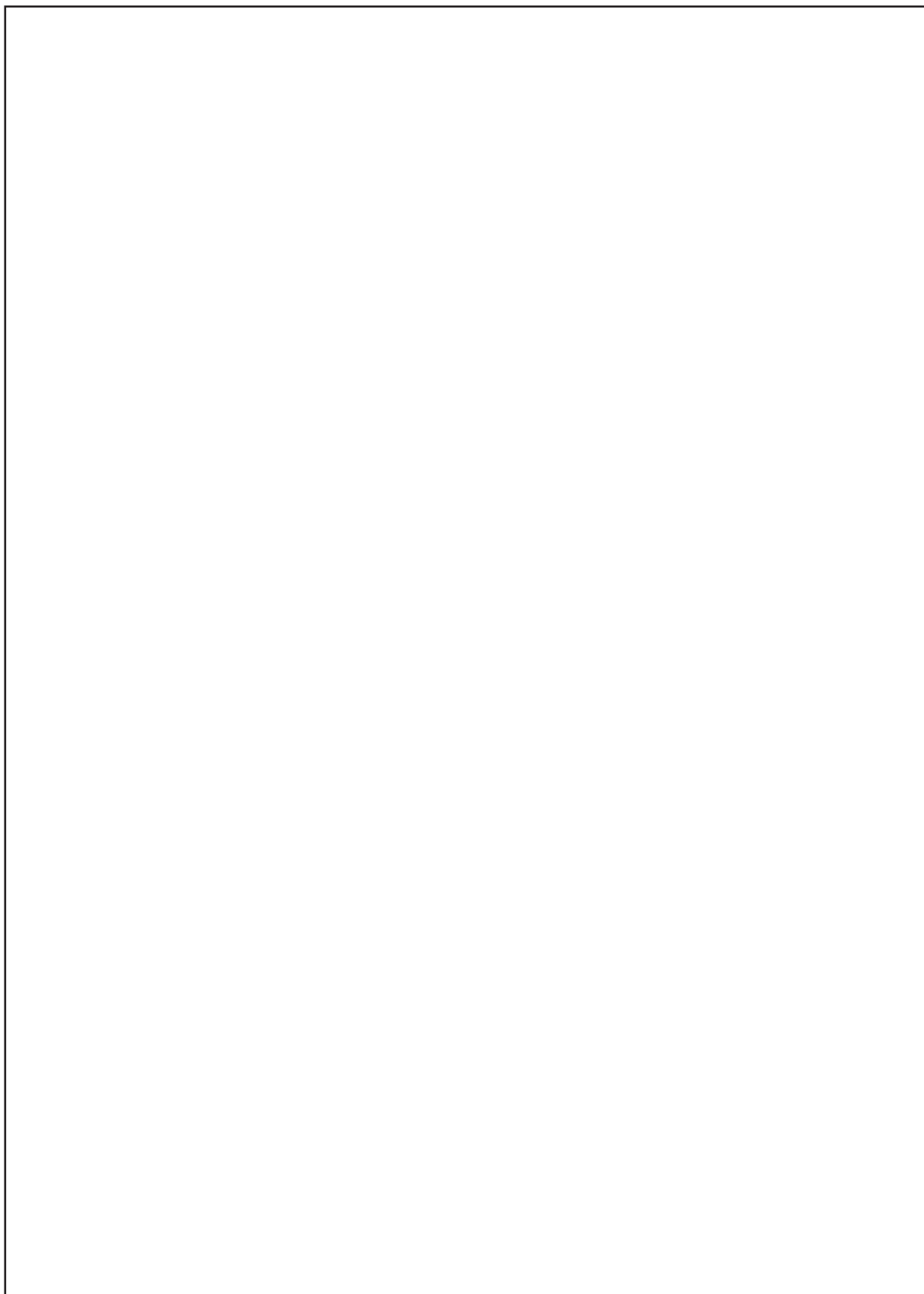
3. 実習の成果（実習後）

4. 今後の課題（実習後）

【事前学習】

学籍番号：

氏名：

A large empty rectangular box with a thin black border, intended for the student to write their student ID and name.

【日々の行動計画表】

実習 日目 指導看護師： 学籍番号： 氏名：

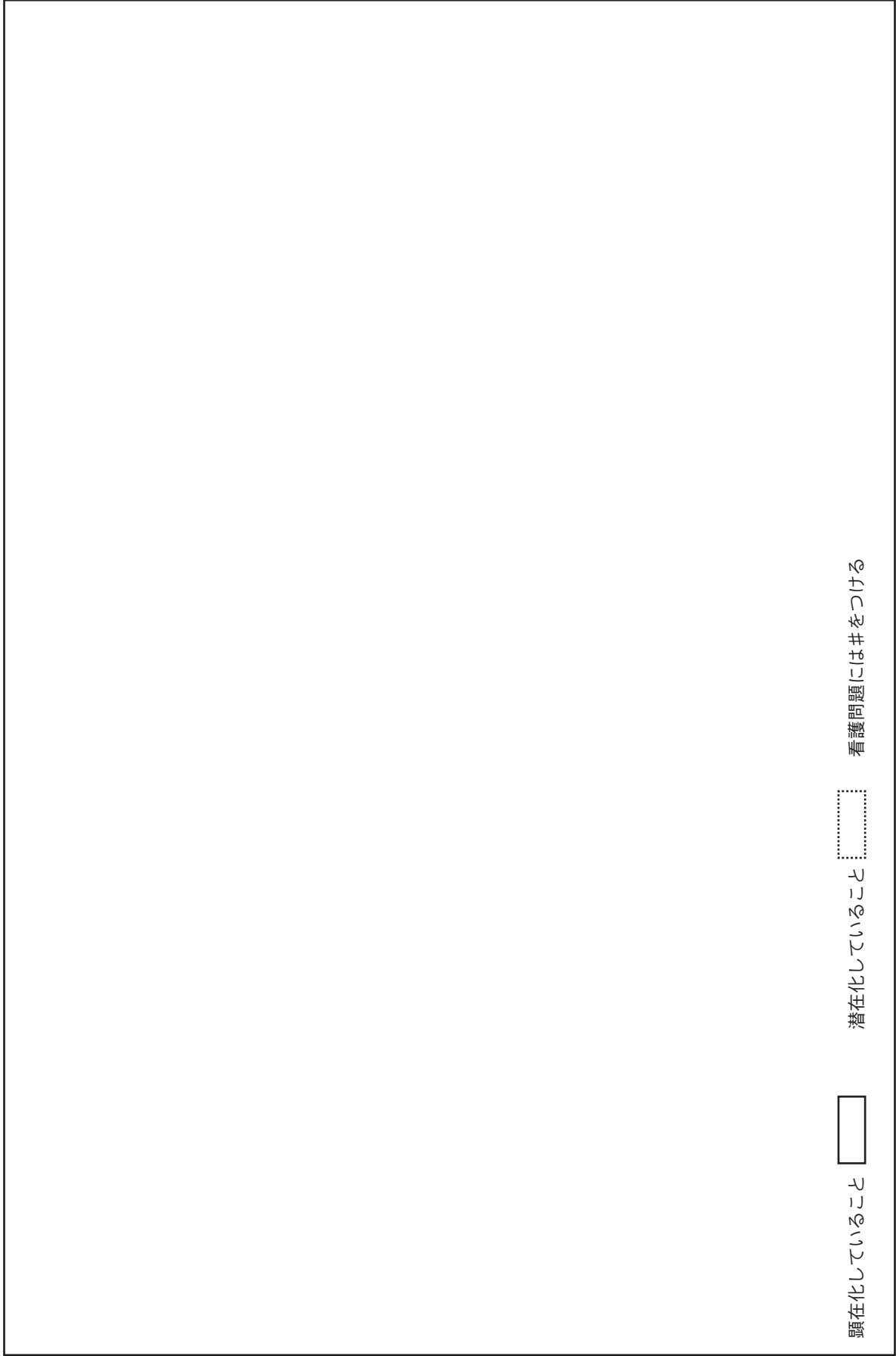
【本日の実習目標】 1. 2. 3.			
時間	行動計画	実施したこと・結果	本日の評価（援助の振り返り）
【本日の学び、目標達成度】			【指導者コメント】 印

【アセスメント用紙】

学籍番号：

氏名：

項目	主観的データ(S)	客観的データ(O)	分析・解釈



顕在化していること

潜在化していること

看護問題には#をつける

学籍番号：

氏名：

【問題リスト】

学籍番号：

氏名：

立案日	#	問題点	優先順位の変更	
			月日	月日
優先順位決定の理由				
問題が解決された患者の姿（長期目標）				

【看護計画】

学籍番号：

氏名：

看護問題 #		
援助目標	具体策 (OP・TP・EP)	結果・評価 (SOAP)
【短期目標】 (1 週間以内)		

高齢者看護学実習Ⅱ評価表

実習場所： _____ 実習期間：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日～ _____ 月 _____ 日

学籍番号： _____ 学生氏名： _____

内容	評価項目	自己評価	教員評価
看護過程の展開	1. 適切な時期に必要な情報を収集することができる		
	2. 情報を整理し、エビデンスに基づいたアセスメントができる		
	3. アセスメント内容を盛り込んだ関連図を作成し、高齢者のニーズを明らかにすることができる		
	4. 問題リストを作成し、援助の方向性を明らかにすることができる		
	5. 看護目標（長期・短期）を設定することができる		
	6. 実現可能で具体的な計画を立案できる		
	7. 実践した援助とその結果や高齢者の反応・変化を明確に記録できる		
	8. 自己の援助を根拠も含めて振り返り、次に活かすことができる		
	9. 高齢者の状態に応じて看護目標を評価し、計画の修正ができる		
	10. 実施したことについて専門用語を用いて正確に報告できる		
	11. 自己の高齢者看護観を決められた形式でレポートにまとめることができる		
看護技術	12. 行動計画に基づき実施できる		
	13. 看護技術は基本をふまえ、正確である		
	14. 報告・連絡・相談ができ、安全、安楽、安心なケアを提供できる		
	15. 高齢者の反応を確かめながら、実施することができる		
	16. 高齢者の持つ残存機能を引き出し、自立（生活の質の向上）に向けた支援ができる		
	17. 高齢者の個別性を理解し、高齢者の人権尊重と看護倫理について理解できる		
	18. 病院における保健医療福祉チームの連携と、看護師の役割を理解することができる		
	19. 社会資源の活用について理解できる		
実習態度	20. 自己の健康管理ができ意欲的に実習できる		
	21. 清潔なユニフォームと汚れていない靴を着用し、決められたヘアスタイルである		
	22. カンファレンスに積極的に参加し、自己の役割を果たすとともに、学びを共有することができる		
	23. 高齢者とその家族、スタッフ、グループメンバーと良好な人間関係を築くことができる		
	24. 報告・相談ができ、指導者や指導教員と良好な人間関係を保つことができる		
	25. 記録物は、整理して期限内に提出できる		
評定	S(100 - 90) A(89 - 80) B(79 - 70) C(69 - 60) F(60 未満)	点	点
評価基準	4：よくできた 3：まあまあできた 2：努力を要する 1：できなかった		
出欠席	遅刻・欠席時間数： _____ 時間 _____ 分 理由： _____		
学生自己評価			
単位認定者：	印	指導教員：	印